



小樽南ロータリークラブ会報

1960年創立
昭和35年2月5日

23

2022年5月20日発行
通巻 第2966号



2021-2022年度 RI第2510地区目標

- 世界に奉仕を 地域には感謝を
- 不忘感謝先人偉業

●例会場/オーセントホテル小樽 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂2-15-1(オーセントホテル内) TEL.0134-27-8080 ●Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●第22回例会報告（5月13日金） ●卓話：「月刊おたる」3代目編集長 藤森五月氏

■ロータリーソング【我らの生業】

■ゲストビジター紹介

「月刊おたる」3代目編集長 藤森五月 氏

■会長挨拶【野村会長】

皆様こんにちは。ゴールデンウイークで2回休会いたしましたので久方振りの例会となりました。案の定と申しますが、ゴールデンウイーク明けでコロナの感染者が若干増えている状況です。この状況がいつまで続くのかわかりませんが、ともかくwithコロナで社会生活もロータリーも回していくことが求められていると思います。

本日のゲスト藤森氏ももっと早くにお越し頂くようお願いしておりましたところ、まん防などで延び延びになっていましたが、ようやくお迎えすることができました。今日は月刊小樽の60年にも及ぶ歩みをお話しあげることになります。ご存知の会員さんも多いと思いますがお父様のお話や「運河を守る会」のお話などにも言及されることと存じます。

今一度、小樽の将来を見据える良い機会になろうかと思います。

■幹事報告

●特になし

■まごころ箱 いつも有難うございます！

野村会員 藤森氏、ご多用のところ本日はありがとうございました。

濱本会員 ゴルフ同好会の会長に思いがけず就任しました。どうぞ宜しくお願ひ致します。

44回目の結婚記念日でした。まだ続いています。

小林会員 4月末日、地域創生・SDGs「人財養成の実学研究」を共著出版無事に出来ました。1週間で完売!

桂会員 会員誕生日祝。 **小笠原会員** 会員誕生日祝。 **井手会員** 会員誕生日祝。 **中山会員** 結婚祝。

山谷会員 先日、夫人誕生日が自宅に届きました。小樽に住み始めて20年経ちました。

周りの方々に支えられて過ごせたと思い、感謝しています。ありがとうございました。

京谷会員 お先に失礼します。

工藤会員 会員誕生日祝。

伊藤会員 44回目の結婚記念日です。50年に向けて互いに健康でいたいと思います。

■今週5月20日金のプログラム

- インタークト研究 宮川会員

■来週5月27日金のプログラム

- クラブ定款・細則変更 廣瀬委員長

■来週6月3日金のプログラム

- 卓話：米山奨学生 孔莉君さん

■誕生日祝【5月に誕生日を迎える会員】

5/1 桂
/4 井手
/15 拝田
/18 小笠原



■結婚祝【5月に結婚記念日を迎える会員】

11/3 濱本
/10 拝田
/11 中山
/15 佐藤(勉)
/16 小原
/23 岡崎
/28 伊藤



■出席委員会

令和4年5月13日(金)

会員総数 58名 本日の欠席者 0名

理事会決定により100%出席

リモート出席者 3名 米山、保知、田中

令和4年4月29日(金)

休会

入金集計額

【令和3.7.2～
令和4.5.13】

5月13日分
33,000円

合計 722,500円



「月刊おたる」通巻700号

月刊おたる 3代目編集長 藤森 五月 氏

本日はお招きいただき誠にありがとうございます。月刊おたる編集長の藤森五月でございます。平素より月刊おたるにお力添え、ご愛読いただきまして心より御礼を申し上げます。

本日は「月刊おたる通巻700号」と題して、お話させていただきます。

月刊おたるは昭和39年に純粋なる郷土誌として創刊し、小樽を全国に発信しており、私が入社したのはいまから16年前ですが、当時30名程度だった全国の定期購読者は現在300名ほどに増え、小樽出身で小樽が懐かしがっておられる方々だけでなく、小樽在住で小樽が好きでたまらない方々、小樽に憧れている道外在住者、という読者が大変増えたと実感しております。

■月刊おたるの概要

小樽のまちの動き、小樽に生きる人々、小樽の人々が生み出す文芸を掲載しております。タウン誌という媒体ですが、タウン誌の要素が半分、もう半分は文芸です。これが月刊おたるの最大の特徴と言え、全国のタウン誌でも珍しいそうです。理由は創刊者の米谷祐司が詩人だったからです。米谷は月刊おたる創刊の前年に詩と文芸によるサークル『小樽詩話会』を発足していましたから、文芸の道を歩む方々の背中を押したいという気持ちも強かったです。

■バックナンバー発掘中

発掘調査して判明したことを本年新年号から「700号特集」として掲載し、この中で一番心を動かされたのは、昭和39年の創刊のことでした。創刊者の米谷から聞いてはいたのですが、創刊のきっかけは、米谷のもとに連判状が届いたことでした。差出人はミツウマゴム吉村傳次郎社長、中央バス松川嘉太郎社長、通信電設は山本勉社長、ヤマシメ木村小樽商工会議所木村圓吉会頭、かま栄小樽専門店会佐藤仁一理事長です。「米谷も小樽っ子だろう。小樽は泣いているぞ」と説得され、悩んだようですが「所詮波打ち際で生まれた男だ、千年生きないのだから」と覚悟して月刊おたると潮まつり創設に至ったのです。昭和39年7月号創刊号の誌面は、小樽の風土、市政、経済、商業、文化とそれにかかる人々に焦点をあて、郷土繁栄を願い、小樽っ子の背中を押し、斜陽という言葉などぶつ飛ばそうという熱意と郷土愛に満ち溢れたものでした。

驚きは、冊子のスタイルが現在と変わっていないことでした。本年新年号から、「創刊の頃」「創刊号」「題字と表紙絵」、米谷が市民読者の背中を押し続けた巻頭言「フロンティア」、掲載してきた文芸作品についてを掲載して参りましたが、この「700号特集」で私自身も読者の皆様方と月刊おたるのあゆみをたどってみたいと思っております。

■通巻700号に向けて

平成26年に、月刊おたるが「通巻600号50周年」を迎え、その際も5号分にわたって同様の特集を掲載しました。創刊者の米谷祐司は決して後ろを振り返らない信念を持っておりましたが、あの世に行ってしまいましたので、逆に生き残った者が評価とまでは申しませんが継続してきたことを記録してまとめ、小樽の記録としても形にのこすことも大切だと思いました。

平成28年に「おたる潮まつり」50周年記念誌の編集にかかりました時に、取材やインタビューしたい方がほとんど亡くなられており、これは取り返しのつかないことだと痛感しました。私は3代目の編集長を仰せつかっておりますが、創刊者米谷祐司に仕えた最後の編集長ですから、月刊おたるが未来に続けていくためには記念誌のようなものを発行した方が良いだらうと思いました。そこで、「700号特集」に入りきらない分をまとめて本年9月下旬に発行することにいたしました。

■インターネット発信をしていない理由

すでにインターネットが活用される時代になっておりますが、月刊おたるでは現在Facebookアカウントから事前に目次を発信しているだけです。インターネット発信については数名のレギュラー執筆陣と毎月話し合っておりますが、現在は米谷の考えを尊重して、誌面の内容はインターネット発信しておりません。

米谷から始めに教わったのは「点・線・面」という言葉でした。「人という点が、行動という線で人や場所と結びつき、市政・商業・生活・文化という面になる。面になるには点を線で結びつけていく途方もない年月がかかる。月刊おたるは人と人、人と商店の懸け橋にならなくてはいけない」ということです。その考えに基づいて、冊子は共賛店にお買い上げいただき、人々はその共賛店に足を運んでお食事やお買い物の際に冊子を受け取っていただく、というスタイルですから、その意味を大事にしたくインターネットで発信することを控えております。

「月刊おたる」は創刊号から変わらず掲載しているものがありますが、ご存じの方いらっしゃいますか？ 最後にこれを読ませていただきます。巻頭に掲げている言葉です。

「この小さい雑誌を ふる里を愛する人々に捧げます 海と山につつまれた港まち小樽の かぎりない夢と繁栄をねがいながら いつも新鮮でありますように いつも心の友でありますように」

本日はお招きいただきまして誠にありがとうございました。今後とも月刊おたるをお引き立て、ご愛読のほどを、宜しくお願い申し上げます。